ると上から土をまいて便をかくす。臭を防ぎハエの発生を防止するためである。ここに来て誰も不平を口にする者はいないし、またそれができる組織でもない。このような急造の小屋が山中いたるところにでき上り、各部隊が十数名づつに分かれて合宿した。

夜が明けると全員宮城のある方向に向かって最敬礼し洞窟陣地の構築作業に取かかるのである。山腹にはいたるところに堀りかけた洞窟が暗い入口を見せていた。前の部隊が洞窟陣地を構築中前線へ緊急移動したためである。それを更に深く堀りすすむのである。何しろアメリカ軍は上陸直前になると空海より猛烈な砲爆撃を繰返し山地を畑のようにならしてから上陸する。昔の戦のように陣前に鉄条網を張り壕を堀りトーチカを設けたような露出陣地はひとたまりもない。砲爆撃が始った時は全員洞窟陣地にかくれ砲爆撃の止むのを待ち、敵が上陸前進すると洞窟から出撃して敵中に突入し敵味方入り乱れて接近戦を行うのである。こういう戦法をとられるとアメリカ軍は味方を傷つけるので砲爆撃ができない。洞窟陣地は部隊の重要拠点である。

小屋が出来て洞窟陣地の堀削に取りかかろうとしたが軍から工具の支給がない。仕方がないので鹿児島周辺出身の兵を家に帰し、先のとがった鉄棒やハンマーを集めさせたが、どの家も焼けていて、焼け跡から僅かばかりの鉄材やハンマーの先を持ち帰るのがやっとであった。それらを修理加工して道具をつくり洞窟を掘るのだが岩が硬くて一日十センチメートルも堀り進めない。そのうち栄養失調になって動けない兵がでてくる。体力が弱っている上に衛生状態が悪いので赤痢が発生し作業に従事できない兵が増えてきた。下痢がひどくなると便所まで行く暇がない。途中の山の中に下痢便をする。ハエがまっ黒にたかって、たちまち部隊に赤痢が拡がる。薬もないし野戦病院もないので手当の仕様がない。

陣地構築中、度度アメリカ軍戦闘機が低空で飛来し附近の村落を攻撃するが、部隊はこれに対し対空射撃をすることができない。射撃をすれば部隊の所在が敵に知られるからである。部隊の資材を受取りに出向いていた者がアメリカ軍機の急襲を受けて数名戦死したこともあったがこれに反撃することもできない。事態